

温泉分析書別表(浴用)

- 1、源泉名 熊谷温泉
- 2、源泉所在地 岡山県新見市上熊谷塩田743-6
- 3、温泉分析申請者 岡山県新見市新見310-3
岡山県新見市 市長 池田 一二三
- 4、泉質 アルカリ性単純温泉(低張性アルカリ性低温泉)
- 5、分析結果による療養泉分類に基づく禁忌症、適応症等は、環境省自然局長通知(平成26年7月1日)環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

【浴用の禁忌症】

・一般的禁忌症 病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動く息苦しくなるような重い心臓病又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血のあるとき、慢性的病気の急性増悪期。

・泉質別禁忌症 該当項目なし

【浴用の適応症】

・一般的適応症 筋肉又は関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫等の慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え症、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、ストレスによる諸症状、病氣回復期、疲労回復、健康増進。

・泉質別適応症 自律神経不安定症、不眠症、うつ状態。

入浴上の注意

浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア、入浴前の注意

(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。

(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。

(ウ) 運動後30分程度の間は、身体を休めること。

(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は、避けることが望ましいこと。

(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度の慣らすとともに、身体を洗い流すこと。

(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ、入浴方法

(ア) 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。

(イ) 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

(ウ) 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当り1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。

(エ) 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当り、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ、入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ、入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)

(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ、湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ、その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

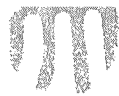
(注)この別表は、温泉法第18条による掲示に必要な参考資料となるものである。

(注)飲用する場合には、飲用の許可があることを必ず確認すること。

報告年月日：平成28年12月28日

岡山県温泉成分分析施設登録番号 自第1号
〒700-0952 岡山県岡山市北区平田4-08-1
公益財団法人 岡山県健康づくり委員会





温泉の成分、禁忌症及び入浴上の注意

成 分	禁忌症及び入浴上の注意																																					
<p>1. 源泉名 熊谷温泉 2. 泉質 アルカリ性単純温泉 3. 泉温 源泉 27.2度 使用位置 40.0～43.0度 4. 源泉の成分 (本水1kgに含有する成分及び分量)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>陽イオン</th> <th>分量(mg)</th> <th>陰イオン</th> <th>分量(mg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナトリウム</td> <td>56.09</td> <td>ふっ化物</td> <td>3.06</td> </tr> <tr> <td>カリウム</td> <td>0.40</td> <td>塩化物</td> <td>41.47</td> </tr> <tr> <td>マグネシウム</td> <td><0.2</td> <td>硫化水素</td> <td><0.2</td> </tr> <tr> <td>カルシウム</td> <td>3.91</td> <td>硫酸</td> <td>22.24</td> </tr> <tr> <td>アルミニウム</td> <td><0.1</td> <td>炭酸水素</td> <td>30.55</td> </tr> <tr> <td>鉄(II)</td> <td><0.05</td> <td>炭酸</td> <td>6.01</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>メタほう酸</td> <td>6.35</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>60.40</td> <td>計</td> <td>109.68</td> </tr> </tbody> </table> <p>メタほう酸 (HBO₂) ・ ・ ・ m g メタけい酸 (H₂S i O₃) 40.10m g 計 40.10m g</p> <p>遊離炭酸 (CO₂) <0.1m g 遊離硫化水素 (H₂S) <0.2m g 計 ・ ・ ・ m g</p> <p>その他微量成分 (単位: mg / kg)</p> <p>総水銀 0.0005 未満 総ひ素 0.005 未満 銅 0.01 未満 鉛 0.01 未満 カドミウム 0.005 未満 亜鉛 0.01 未満 マンガン 0.01 未満 総クロム 0.03 未満</p> <p>ラドン含有量 22.08 Bq/kg (6.0×10⁻¹⁰ Ci/kg)</p> <p>pH 値 9.6 密度 0.9984 g/cm³(20℃/4℃) 蒸発残留物 0.1200g/kg</p> <p>知覚的試験 無色澄明・無味・殆ど無臭 (採水 24 時間後)</p> <p>分析年月日 平成 28 年 12 月 22 日</p>	陽イオン	分量(mg)	陰イオン	分量(mg)	ナトリウム	56.09	ふっ化物	3.06	カリウム	0.40	塩化物	41.47	マグネシウム	<0.2	硫化水素	<0.2	カルシウム	3.91	硫酸	22.24	アルミニウム	<0.1	炭酸水素	30.55	鉄(II)	<0.05	炭酸	6.01			メタほう酸	6.35	計	60.40	計	109.68	<p>1. 浴用の禁忌症 病気の活動期 (特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓病又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期</p> <p>2. 浴用の方法及び注意 (1) 入浴前の注意 ア 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。 イ 過度の疲労時には身体を休めること。 ウ 運動後 30 分程度の間は身体を休めること。 エ 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1 人での入浴を避けることが望ましいこと。 オ 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。 カ 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。 (2) 入浴方法 ア 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。 イ 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。 ウ 入浴回数 入浴開始後数日間は、1 日当たり 1～2 回とし、慣れてきたら 2～3 回まで増やしてもよいこと。 エ 入浴時間 入浴温度により異なるが、1 回当たり、初めは、3～10 分程度とし、慣れてきたら 15～20 分程度まで延長してもよいこと。 (3) 入浴中の注意 ア 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。 イ 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。 ウ めまいが生じ、又は、気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。</p>	<p>(4) 入浴後の注意 ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び 30 分程度の安静を心がけること (ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質 (例えば酸性泉や硫黄泉等) や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で流した方がよいこと。) イ 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。 (5) 湯あたり 温泉療養開始後おおむね 3 日～1 週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態から回復を待つこと。</p> <p>禁忌症確認年月日 令和 2 年 9 月 8 日 確認者 岡山県備北保健所長</p> <p style="text-align: center;">成分に影響を与える項目</p> <p>1. 入浴に適した温度に保つために加温しています。</p>
陽イオン	分量(mg)	陰イオン	分量(mg)																																			
ナトリウム	56.09	ふっ化物	3.06																																			
カリウム	0.40	塩化物	41.47																																			
マグネシウム	<0.2	硫化水素	<0.2																																			
カルシウム	3.91	硫酸	22.24																																			
アルミニウム	<0.1	炭酸水素	30.55																																			
鉄(II)	<0.05	炭酸	6.01																																			
		メタほう酸	6.35																																			
計	60.40	計	109.68																																			
<p>分析者 (公財) 岡山県健康づくり財団 登録番号 岡山県自第 1 号</p>																																						